

第一回 あさひ糖尿病川柳大会 入賞作品発表！

皆さま、ご応募・ご支援いただき、ありがとうございました！

優秀賞
(1作品)

糖尿病 癒し迎える五輪の火

[小百合様 女性・77歳]

佳作
(2作品)

血糖値 私が下げたと妻威張り

[K・W様 男性・80歳]

インスリン 打つ手慣れたる米寿かな

[昭而様 男性・87歳]

審査員
特別賞
(2作品)

きのこ狩り しめじとえのき とり除く

[ぞうきん様 男性・82歳]

蒲焼は名刺大にと栄養士

[M・K様 男性・85歳]

※今回の入賞作品はすべて当院の患者さんからの応募作品でした。

【総評】 今般、初めての試みとして11月14日の「世界糖尿病デー」に因んだ糖尿病イベントを開催いたしました。その一環として10～11月に糖尿病川柳大会を実施いたしました。

イベントでの応募呼びかけ、院内での掲示、ホームページでの告知等を行ない、合計112作品の応募がありました。

どの作品も日頃の糖尿病治療への苦労などがしのばれる一方で、ユーモアと笑顔で過ごすことが大事という前向きな気持ちが表れた作品が多いことが印象的でした。

おもしろさだけでなく糖尿病治療の啓発という点でも優れた作品が多数あり、選考委員会でも優秀作品を選定するのに苦労いたしました。

優秀作1点、佳作2点を選定の予定でしたが、更に審査員特別賞2点を追加で選定することといたしました。

これからも多くの患者さんとともに糖尿病治療に向き合っていく医療機関として、コミュニケーションづくりの一環に役立ててまいりたいと思います。

第一回 あさひ糖尿病川柳大会 作品講評

優秀賞 「糖尿病 癒し迎える五輪の火」

[小百合様 女性・77歳]

6年後の2020年に開催の東京オリンピックに向けて、ご自身の糖尿病治療への思いが伝わる一句です。多くの応募の中でオリンピックに関係したものはお一人だけであり、着眼点が時節を捉えたユニークさがあります。77歳というお年ですが、一緒に6年間のご健康を応援したくなるような作品です。東京オリンピックでは、当院の前の道がマラソンコースとなりますので、いろいろな思いが更に広がります。

佳作 「血糖値 私が下げたと妻威張り」

[K・W様 男性・80歳]

糖尿病の治療は一人で努力するのはなかなか難しく、医療機関だけでなく、家族の協力はとても大切です。五・七・五の短い文字の中に、ご本人の努力はもとより奥様の手料理の工夫や日常の協力が、ストーリーとして思い描かれます。そして、その奥様への感謝を底流に謳うほほえみさも感じられます。

佳作 「インスリン 打つ手慣れたる米寿かな」

[昭而様 男性・87歳]

思わず作者の年齢を見てしまう作品です。一見さらりとした作品ですが、糖尿病の長い治療歴の中で、上手に自己管理されていることが想像できます。インスリンを打っていても、糖尿病が文字通り一病息災の病気であることを証明していただいているようです。

審査員特別賞 「きのこ狩りしめじとえのき とり除く」

[ぞうきん様 男性・82歳]

糖尿病の三大合併症「神経症（し）・網膜症（め）・腎症（じ）」と重要な合併症「壊疽（え）・脳梗塞（の）・狭心症（き）」について理解し、覚えやすい作品です。

審査員特別賞 「蒲焼は名刺大にと栄養士」

[M・K様 男性・85歳]

おもわず鰻丼のイメージが目の前に浮かぶ、ユーモアあふれる作品です。ちなみに、当院の栄養士は、このような指導はしていないということでした。